

～12市町村 復興再生への取組《葛尾村》～

(公財)福島県農業振興公社

葛尾村における営農再開状況及び営農再開に向けた取組紹介

営農再開の状況

葛尾村では、従来、畜産や水稻を主な作目とする営農が行われていました。原発事故の影響により一時全村避難指示となりましたが、村の大部分は平成28年6月に解除され、特定復興再生拠点区域（野行地区）も令和4年6月に解除されました。令和6年度末時点の営農再開状況は、震災前の営農面積398haに対し、営農再開面積は184ha【葛尾村調べ】、営農再開率は46.2%となっており、被災12市町村平均（52.9%）より若干低い状況です。

農地バンクの活動状況

葛尾村では避難指示解除後、営農再開支援事業による管理耕作が主となっていましたが、令和6年度に震災後初めて、農地中間管理事業の活用があり、令和7年10月末時点で約6haの契約締結となりました。

市町村コーディネーターは、管理耕作を受託している全ての農家を訪問し、管理農地の内容や今後の意向等を聞き取りながら、農地バンク制度の周知を行いました。その中で、高齢受託農家からは、農地バンクに移行した場合に貸借期間が長期になる場合は活用が難しい旨のお話も伺っています。

管理耕作への支援期間終了後には農地バンクの活用が見込まれることから、高齢受託農家の農地活用手法を含め、地域計画の見直しにおける座談会等で検討し、農地バンク契約に結び付くよう推進して参ります。更に、耕作者が定まらずに現在も保全管理のみ行っている農地も多数あることから、ほ場条件の改善に向け村と連携しながら、担い手が耕作しやすい環境とする基盤整備事業等を通し、農地バンクの活用を推進していきます。



▲集落座談会の様子
(落合・大笹・岩角・広谷地地区)



▲集落座談会の様子(野行地区)

市町村コーディネーター自己紹介

葛尾村担当 市町村コーディネーターの門馬吉喜（もんまよしき）です。令和7年4月から葛尾村役場に駐在しています。田村市役所を退職後、令和元年から5年間葛尾村職員として勤務し、営農再開に向け、主に水稻育苗施設・ライスセンターの整備や営農再開支援事業を担当し、年に幾度も村内を巡回し営農再開の進捗状況を目視でその実態を確認しながら推進をしていました。

村職員退職後1年間、自家農業に従事し、果樹栽培の傍ら遊休桑園の解消を進めておりました。縁あって本職に従事することとなり、村の営農再開の支援策の一部として農地バンク事業が有効であると考えており、その推進を図っています。

